
当院透析室における新型コロナウイルス 感染予防対策についての意識変化 —机上訓練前後のアンケート調査より—

織田佳代、新林カンナ
秋田厚生医療センター 腎センター

Awareness change regarding preventive measures against new coronavirus infection in the dialysis room of our hospital ～From a questionnaire survey before and after tabletop training～

Kayo Oda, Kanna Shinbayashi
Hemodialysis Center, Akita Kousei Medical Center

<緒言>

新型コロナウイルス感染症の蔓延は2020年2月頃から始まり、現在も終息していない。透析患者の多くは糖尿病や心臓血管疾患などを合併した腎不全状態であり、感染症に罹患すると重症化しやすいと言われている。新型コロナウイルスに感染した透析患者の致死率は一般の致死率の15倍以上¹⁾と非常に高い。そのため透析室においては特に感染防止策の徹底と、コロナウイルス感染者発生時の感染拡大防止策を講じることが重要である。コロナウイルス蔓延に伴い、看護師から感染対策への不安の声が聞かれた。そこで感染防止対策への知識・技術を身に着け、コロナ禍においても安心・安全な透析看護を提供することを目的に患者発生をシミュレーションした机上訓練²⁾を実施した。訓練前後のアンケート結果から、感染防止対策には机上訓練が有効であったので報告する。

<方法>

研究対象：当院透析室に勤務する正規雇用の看護師で副師長、主任を含む15名

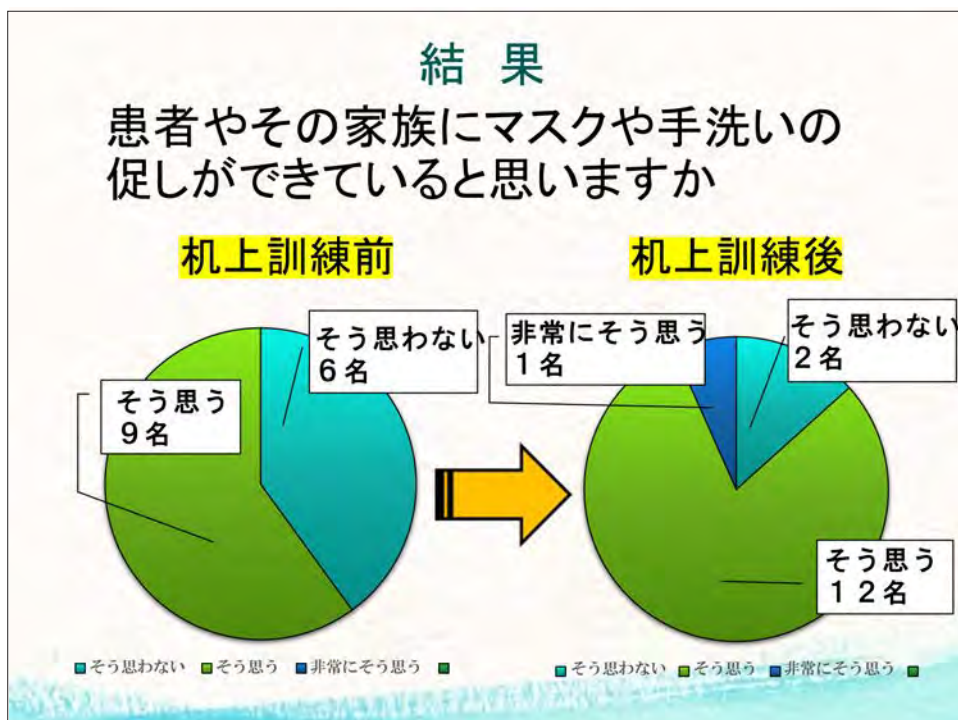
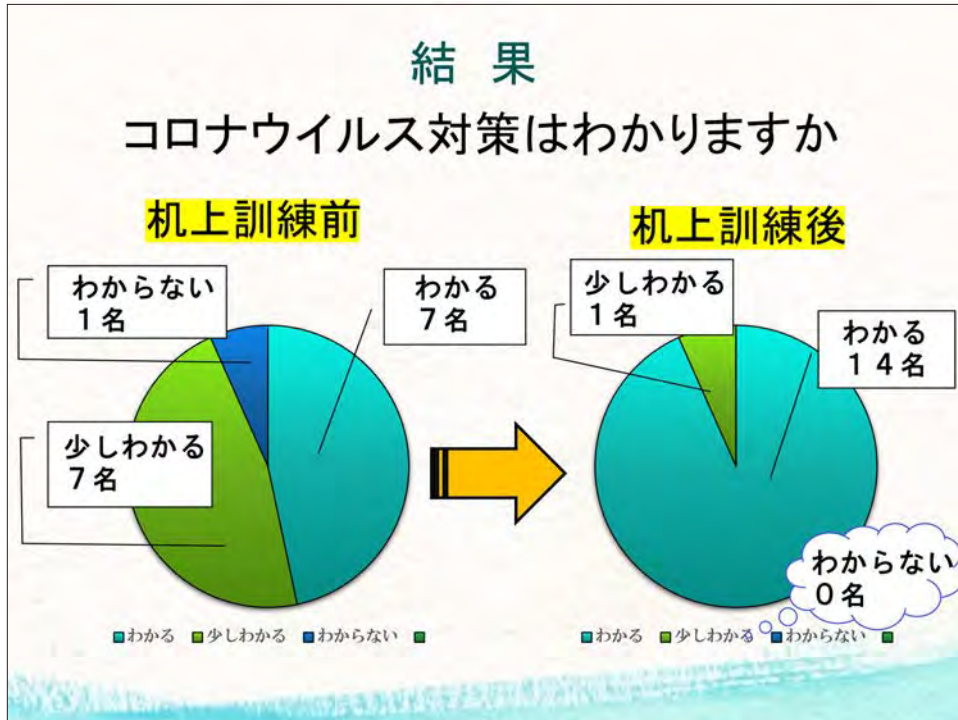
データ収集方法：独自に作成した質問記述式調査（留め置き調査）

データ分析方法：単純集計

机上訓練内容：当院透析室に勤務する看護師に、コロナウイルス感染を疑う透析患者が発生したと仮定し、患者からの電話対応、入室後の患者対応、環境整備について行った。また、再確認のため手指衛生の5つのタイミング、PPE、コロナウイルスの検査方法、環境消毒について資料を配布し説明を行った。

<結果>

机上訓練後、「コロナウイルス対策はわかりますか」という質問に対してわかると答えた人は訓練前の7名から14名に増えていた。(図1)「患者やその家族にマスクや手洗いの促しができていると思いますか」という質問に対し、そう思う、非常にそう思うと答えた人が訓練前の9名から13名に増えていた。(図2)



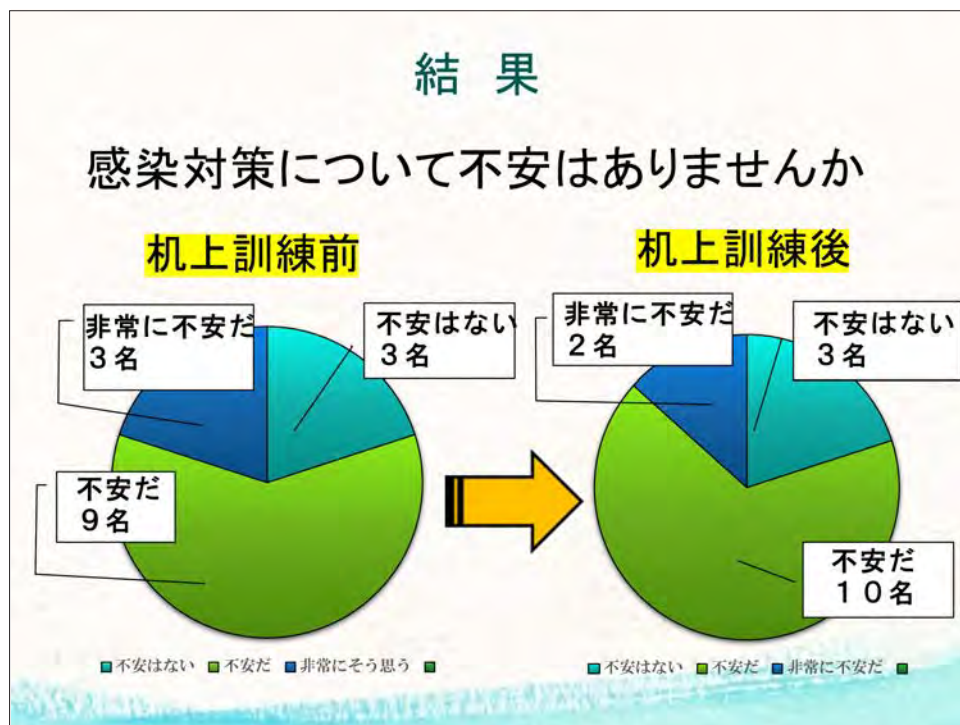


図 3

「感染対策について不安がありませんか」という質問に対して、あると答えた人が訓練前の9名から12名に増えていた。(図3) また、机上訓練中にコロナウイルス感染者の駆血帯はディスプレイのものの方がよいという意見や、ごみの分別方法や処理の仕方に対する質問や意見があった。アンケート結果を踏まえN95マスクやガウン等一式をセットした感染対策用カートを準備、PPEの着脱方法を全員がチェックし、自信をもって速やかに対応できるようになった。

<考察>

当院は随時情報が更新されている院内感染対策マニュアルを使用し行動している。情報は速やかに発信される他、オンライン上での研修も適宜設けられており、感染防止対策に努めている。またこれまでの経験から得られた知見は手順化され、全ての職員は閲覧可能となっている。看護師もその情報を元に標準予防策を行った上で飛沫感染予防策と接触感染予防策を行う対応をしている。しかし、感染対策がわかると答えたのが15名中7名だったことに危機感を覚えた。机上訓練後のアンケートではすべての項目においてできる、わかると回答した人数が増えている。中でも患者指導の項目においてできると答えた人数が増えたことは、机上訓練を行うことによって感染対策を再確認しコロナウイルスについての知識が深まったことで、感染防止対策に積極的に取り組む姿勢に繋がった。知識が深まり、看護師が共通認識を持って感染対策ができるようになったことから患者への指導も自然にできるようになったと考えられる。菊地らは「患者に十分な指導を行うとともに、透析施設での確実な感染対策への取組みが、患者のCOVID-19感染への予防、透析施設内での水平感染の予防に極めて重要となる。」³⁾と述べている。患者指導に結び付く机上訓練は感染対策として重要であるとわかった。また、机上訓練後に感染対策について不安があると答えた人が増えていた

のは、知識を得ることによって希薄だった危機感が生じたためと考える。看護師全員が共通認識を持って統一した対応を行うためには、定期的に手技の確認や対応策の確認などを行い、看護師全員が不安なく感染対策ができるようにすることが大切であると考えられる。透析室は病棟とは違い外来通院患者が通う場所であるため、患者が安心して通院できるよう平時からの染防止対策が必要である。

<結語>

1. 机上訓練を実施したことにより感染対策に対する共通認識を再確認し、感染防止対策に積極的に取り組む姿勢に繋がった。
2. 机上訓練によって得られた情報は患者指導に結びつき、感染対策として重要である。
3. 机上訓練時に問題点や改善点などの意見も多く挙げられたため、今後も机上訓練などの情報共有の場を設け、定期的に感染対策の検討や手技の確認を行っていく必要がある。

<利益相互>

本論文内容に関連し、発表者らに開示すべき利益相互はない。

<引用文献>

- 1) 菊地 勘、山川智之、竜崎崇和、南学正臣、新型コロナウイルス感染対策合同委員会. 透析患者における累積の新型コロナウイルス感染者の登録数 (2021年12月23日時点)
http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/03info/doc/corona_virus_infected_number_20211224.pdf
- 2) 新型コロナウイルス感染症感染者発生シミュレーション～机上訓練シナリオ～厚生労働省老健局
- 3) 菊地 勘：新型コロナウイルス感染症に対する透析施設での対応について (第5報). 公益社団法人 日本透析医会 新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループ
http://www.touseki-ikai.or.jp/htm/03_info/doc/20201008_action_for_covid19_v5.pdf